

# 令和5年度 学習分析事業 改善計画 三原市立宮浦中学校

## 1. 本年度の結果

### ①学力定着分析 NRT 偏差値平均

		国語	社会	数学	理科	英語	全体
1年	前年度結果 偏差値平均	/	/	/	/	/	/
	本年度結果 偏差値平均	51.1	48.8	50	49.8	50.7	50.1
2年	前年度結果 偏差値平均	49.9	49.1	49.8	49.8	48.5	49.4
	本年度結果 偏差値平均	50.9	49.2	51	48.9	50.8	50.2
3年	前年度結果 偏差値平均	50.8	50.6	49.3	48.7	53	50.3
	本年度結果 偏差値平均	49.4	50.2	46.8	48.3	50.7	49
全体	前年度結果 偏差値平均	49.9	50.1	49.8	49.1	50.1	49.7
	本年度結果 偏差値平均	50.4	49.5	49.1	49	50.7	49.7

### ②学習環境分析 Q-U 【1回目】

		1年	2年	3年	全体
一次支援	人数(人)				
	割合(%)				
二次支援	人数(人)				
	割合(%)				
三次支援	人数(人)				
	割合(%)				
学習意欲	学年(点) 全国(点)				

### ③全国学力・学習状況調査 正答率平均

教科	国語	数学	英語
前年度結果 (対県比)	68 (98.5)	55 (90.9)	/
本年度結果 (対県比)	69 (98.5)	42 (85.7)	52 (120.9)

### ④学習環境分析 Q-U 【2回目】

		1年	2年	3年	全体
一次支援	人数(人)				
	割合(%)				
二次支援	人数(人)				
	割合(%)				
三次支援	人数(人)				
	割合(%)				
学習意欲	学年(点) 全国(点)				

## 2. 調査から明らかになった課題

<p>【年度当初の学力について】(NRTをうけて)</p> <p>【国語】古文読解について、2年38%(全国44%)、3年38%(全国49%)である。 【社会】2年歴史分野の正答率が際立って低く、3年歴史分野(江戸時代中期以降の政治、文化)正答率が全国より5%以上低い。資料読み取り問題は全学年で高くない。 【数学】全学年、関数領域が全国正答率より低い。前学年の5段階分布比で、現2学年は2が減少、3、4、5が増加。現3学年は4、5が減少、3が増加している。 【理科】2、3年は昨年度末の単元(3年・電流、2年・地球)で全国平均との有意差検定が低い問題が多い。1年は電流回路、てこの原理で全国比67%前後。 【英語】全国比で、1年は話す領域が91、2年は聞く領域が94、3年は読む領域が99であった。5段階分布で1の生徒は、1年8%、2年7%、3年10%であった。</p>	<p>【年度当初の学力について】(全国学力・学習状況調査をうけて)</p> <p>●【国語】平均正答率は69(全国69.8)で、記述式の正答率が低く、特に自分の考えを書く問題の正答率は78.7(全国82.5)、現代語で書かれた竹取物語の工夫点を古典と比較して書く問題の正答率が39.8(全国50)であった。 ●【数学】平均正答率は42(全国51)で、知識・技能の正答率が46.9(全国55.7)、思考・判断・表現の正答率が31.3(全国41.6)であった。言葉の意味の理解を問う問題や、グラフの読み取り、説明・証明などの問題が特に課題である。 ●【英語】平均正答率は52(全国45.6)で、情報の正確な聞き取り77.8(全国79.0)、短い文章の概要の読み取り31.5(全国34.7)が全国を下回った。記述の無解答率が高いことも課題といえる。「話すこと」では、平均正答率15%(全国12.4%)であったが、数名の高得点によるところが大きい。</p>
<p>【学級・学年集団について】(1回目のQ-Uをうけて)</p> <p>●【1年】全体の約34%の生徒が概ね安定した学校生活を送れているが、三次支援が必要な生徒が約5.7%いることが分かった。 ●三次支援の必要な生徒の割合が全体の4.3%いる。 ●【3年】親和的なまとまりのあるクラスが2学級、規律と人間関係が不安定な学級が1学級で、三次支援が必要な生徒は全体で2.9%である。</p>	<p>【学級・学年集団について】(2回目のQ-Uをうけて)</p> <p>●</p>

## 3. 課題解決に向けた学校組織全体の重点目標・取組

(※毎月ブロック訪問や授業研で参観させていただきます。また、重点取組は、第2回の指導力向上研修において事例として別紙にまとめ紹介させていただきます。)

重点目標 (何を、どの程度達成するか)	達成のための具体的取組 (どのようにして)	スケジュール	検証の指標・目標
<p>【授業改善を通じた学力・学習意欲の向上】</p> <p>【国】古文の内容の正確な読み取り。 【社】基礎的知識、資料読み取り技能の向上。 【数】関数と事象、座標、グラフに関連付けた授業改善。 【理】基本原理の習得、日常生活と関連させた授業改善。 【英】長い英文による長文読解力・聞き取り力の向上、視覚支援をベースにした言語活動の充実 ■全職員で「主体的・対話的な学びの創造」を目指す。</p>	<p>①教科会による現状と課題分析、目標設定 ②試験期間中の学習相談を活用した補充学習。 ③小テスト・モジュールでの繰り返しによる定着。既習問題と応用問題をバランスよく組み込んだ授業展開。 ④板書の工夫。(めあてと振り返り) ⑤ICTの効果的活用や研修 (ミライシート、ウインバード、スタディーギア) ⑥アシストシート問題の配布、効果的な活用。 ⑦全職員による、問いの設定・ICTの活用・協働学習を取り入れた授業改善。指導主事を招聘した研究協議の充実。</p>	<p>①6月28日実施済み ②2・3学期の定期試験前。 (10月、12月、2月) ③④通年 ⑤⑥研修後、通年。 (1単元に1度はICTを使用した授業展開。授業内でアシストシートを使った検証) ⑦個別研究授業1学期5名、2学期7名、3学期1名</p>	<p>■学校アンケートで授業改善を検証。(ICT、問い、協働について。時期:9月) ■アシストシートを利用した類似問題の出題(時期:2学期定期試験または授業内) →4月のNRT以上の数値を目指す。</p>
<p>【学級・学習集団づくり】</p> <p>今年度末までに三次支援の生徒の減少を目指す。その手立てとして、デイリーライフやアンケート等を通して生徒の内面を見取り、個別対応していく。</p>	<p>①学年群によるQU結果からの学習集団の把握、個の支援状況把握 ②デイリーライフを毎日確認し、個別にアドバイスする。 ③定期的にアンケートを実施し個別面談等を行う。 ④教員による共通認識を図り、困り感等の解消に取り組む。 ⑤構成的エンカウンター等で、人間関係形成の構築に努める。 ⑥肯定的評価を学級・学年で取り組む。 ⑦SCやSSWIによる研修、生徒理解に係る研修</p>	<p>①6月28日実施済み ②毎日。 ③毎学期1回、Q-U時。 ④随時。 ⑤学期に1回。 ⑥随時。 ⑦8月</p>	<p>第2回のQ-U →各クラスにおける三次支援の生徒の減少</p>

## 4. 課題解決に向けた重点取組を振り返って

<p>【今年度の成果と次年度にむけた改善点】</p> <p>○</p> <p>●</p>
--

## 5. 次年度学力調査の目標値

		国語	社会	数学	理科	英語	全体
新2年	目標値 偏差値平均						
新3年	目標値 偏差値平均						

全国学力・学習状況調査 正答率平均		
教科	国語	数学
目標値 (対県比)		